



第2章 緑の将来像

2-1 基本理念

みず みどり **水と緑**にいだかれた ひと はな え **人が花笑む** みりょく か とし **水緑花都市・くるめ**

本市は、九州一の大河・筑後川や東西につらなる耳納連山にいだかれた自然豊かな場所です。また、肥沃な筑後平野には、田畑やクリークが広がり、県内有数の農産物の生産地として発展してきました。さらに、耳納連山の麓は、全国的にも久留米つつじや久留米つばき等の植木の産地でもあります。

これからの緑のまちづくりでは、このような久留米らしい緑を将来にわたり継承していくとともに、近年の都市づくりの課題である都市の低炭素化の推進や豊かな生態系の維持、都市の防災機能の向上、質の高い都市空間づくり、効率的な財政運営等に対し、公園緑地等がもつ緑の役割を最大限に発揮させながら対応していく必要があります。

また、久留米らしい緑を活かしていくためには、自然と都市、人と人、人と自然の共生を大切にしたまちづくりを行っていくことが重要です。

そのため、本計画では、市民、事業者等、行政がそれぞれの役割を担いながら、協働のもとで、久留米らしさの象徴である「水」と「緑」と「花」を活かした緑のまちづくりと緑のネットワークの形成を進め、久留米をさらに水緑花（魅力化）するため、水（筑後川）と緑（耳納連山）の豊かな自然にいだかれながら、「人々が咲いた花のような華やかな笑顔」になれる魅力的で、ずっと暮らしたくなる「水」と「緑」と「花」あふれる『水緑花都市・くるめ』を目指します。

※花笑み^{はなえ}：咲いた花のような華やかな笑顔（名詞）

水緑花とは・・・

水が魅了し、**緑**が力強さを感じさせる、**花**笑むまちに**進化**する様子や、その景観、生態系、人々の活動を総称したものです。



**■緑の目標水準**

「緑の目標水準」は、「緑の将来像」の実現に向けた数値による目指すべき目標です。

目標年次の平成37年度までに、次の2つの「緑の目標水準」の達成を目指し、緑の施策を進めていきます。

緑の目標水準 1 <総量の目標>**全市における緑の割合**

久留米市の緑の約6割は、農地となっています。久留米市国土利用計画等からも農地から住宅用地や工場用地等への転換が予測されており、平成37年度には、農地だけで約60ha(ヘクタール)が失われると予想されます。

そこで、新たな計画では、農地の保全を図るとともに、都市公園をはじめとした公共の緑や身近な暮らしにある緑を創出し、現況以上の緑の割合確保を目指します。



	現況 (平成 29 年度)	目標値 (平成 37 年度)
全市における緑の割合	70.3%	70.3%以上

緑の目標水準 2 <水緑花のまちづくりに向けた目標>**花や緑、水辺等の魅力が高まったと感じる市民の割合**

現在、9割以上の市民が山や川等の自然系の緑の量が多いと感じています。しかし、前年度より花や緑、水辺等の魅力が高まったと感じる市民は7割程度です。

そのため、本計画では、生活に身近な公共公益施設、住宅地、道路等で、質の高い水や緑、花を創出し、より多くの市民が日々の生活・余暇やボランティア活動等を通して、水緑花あふれる魅力的な都市だと感じる取組みを進めます。

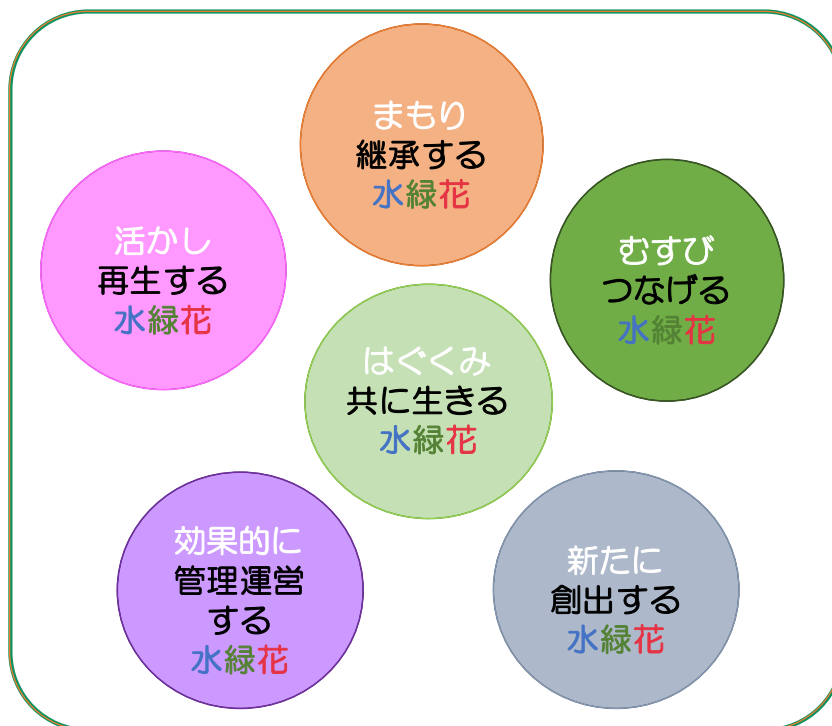
	現況 (平成 29 年度)	目標値 (平成 37 年度)
花や緑、水辺等の魅力が高まったと感じる市民の割合	70.8%	85%

■ 6つの水緑花^{みりよくか}エレメント

「課題から抽出された視点」をもとに、基本理念を実現させるための「6つの水緑花^{みりよくか}エレメント（要素）」を設定します。

この6つの水緑花エレメント（要素）を基に、水緑花の将来構想を描くとともに、効果・効率的な緑化政策の推進を図ります。

- ① 自然や生態系の重要な水緑花をネットワークの骨格とし、未来へと「まもり継承する」
- ② 久留米の水緑花をネットワーク形成の軸として、回廊等により「むすびつなげる」
- ③ ネットワーク機能を強化するため、水緑花の拠点を「新たに創出する」
- ④ ネットワーク機能を強化するため、既存の水緑花の拠点を「活かし再生する」
- ⑤ 健全なネットワーク形成を図るため、水緑花を「効果的に管理運営する」
- ⑥ 持続可能なネットワーク形成を図るため、市民と共に水緑花を「はぐくみ共に生きる」





2-2 水緑花の将来像

(1) 水緑花構想図（水緑花の将来像）とは

水緑花構想図とは、基本理念の実現に向けて、久留米市の緑の都市構造の現状をとらえ、6つの水緑花エレメントに基づき、水と緑と花を活かした水緑花ネットワークを形成していくことにより、本市が目指すべき水緑花の将来像を描いたものです。

(2) 水緑花をネットワークしていく必要性

基本理念を実現させるためには、久留米市内の多様な水緑花や環境・集落等を、水緑花を通してネットワーク形成することが重要であり、それによって①生物多様性、②景観多様性、③環境保全（自然）と環境改善（都市や生活）、④レクリエーション・観光（流動性や回遊性・つながりの強化）、⑤防災機能を充実させ、久留米市全体の魅力を連続させ、久留米をさらに魅力化していきます。

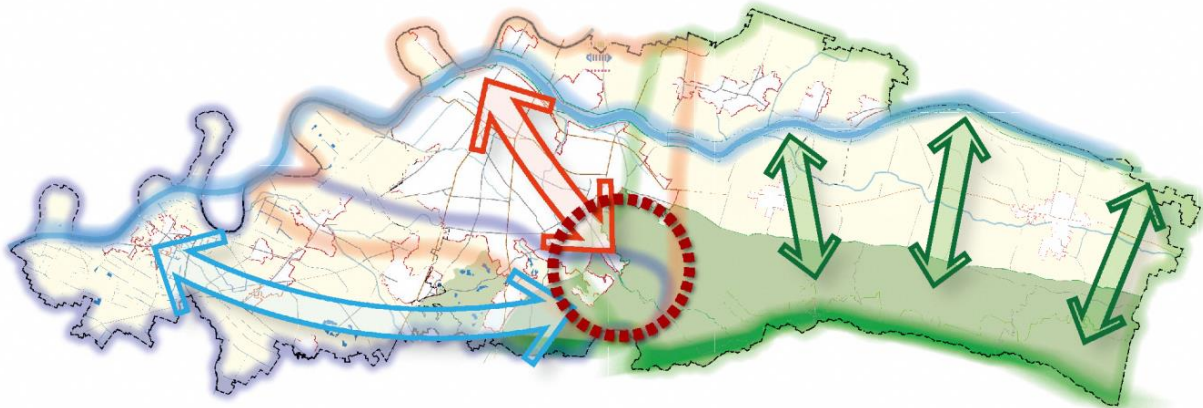
(3) 水緑花の将来像の形成に向けた基本的な考え方


久留米市の緑の都市構造は、筑後川や耳納連山で構成する水緑花の骨格や高良山を中心とした水緑花のコア及び水緑花ネットワークを形成するうえで、特徴的な3つのゾーンと主要軸で構成されています。


これらの構成で区分されたゾーン毎の水緑花の特性を活かしながら、各ゾーン間の連携を6つのエレメントに基づき強化を図り、市域全域の水と緑と花を活かした水緑花ネットワークの形成を目指します。


■緑の都市構造

 都市を包み込む水緑花ゾーン（中部）



 身近な水辺でつながる水緑花ゾーン（西部）

 自然のダイナミズムを体感できる水緑花ゾーン（東部）

要素	凡例
水緑花の骨格	 筑後川  耳納連山
水緑花のコア	
水緑花の主要軸	



身近な水辺でつながる水緑花ゾーン(西部)

網の目に流れるクリークがつながる田園風景が特徴で、点在する水緑花・生態系等の拠点がクリーク等の水辺で耳納連山と筑後川をつなげるネットワークを形成する。



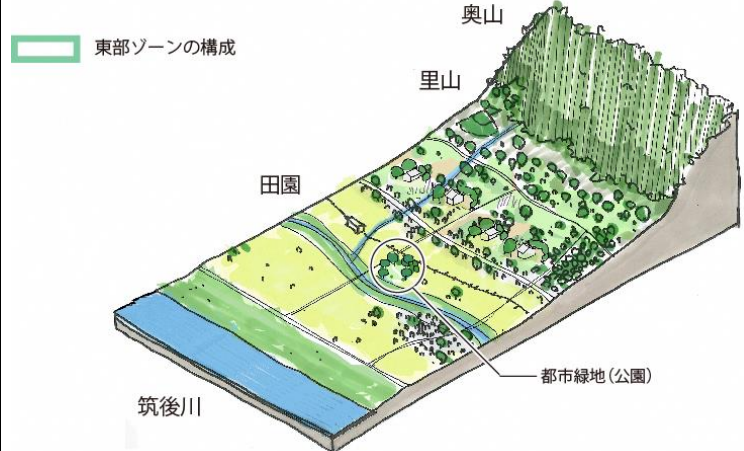
都市を包み込む水緑花ゾーン(中部)

市街地が筑後川や田園、耳納連山に囲まれた都市構造が特徴的で、中心市街地をはじめとする市街地が都市緑地等（都市公園・街路樹等）により、重層的に水緑花で包み込まれたネットワークを形成する。



















自然のダイナミズムを体感できる水緑花ゾーン(東部)

耳納連山から筑後川まで「奥山→里山→田園→河川」一連のダイナミックな風景が特徴的で、広大なパノラマの中で、その空間的・時間的ダイナミズムを体感できるネットワークを形成する。



(4) 久留米^{みりよくか}水^み緑^{りよ}花^か構想図における各構成要素

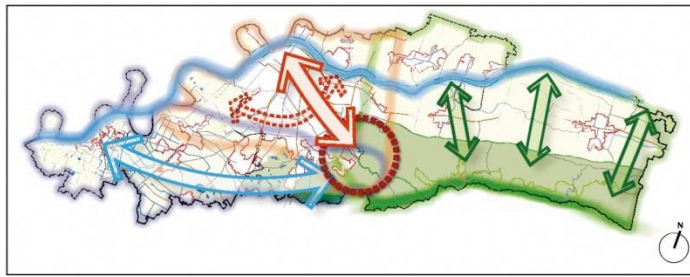
分類	構成要素の内容
みりよくか 水 ^み 緑 ^{りよ} 花 ^か の骨格	<p>久留米市の原風景であり都市景観や生態系の維持等の基盤となっている「筑後川」と「耳納連山」を水^み緑^{りよ}花^かの骨格として位置づけ、保全・活用を図ります。</p> <p> 筑後川  耳納連山</p>
背景となる みりよくか 水 ^み 緑 ^{りよ} 花 ^か	<p>平野部に広がる「田園」や山麓の「里山」は、本市緑の背景となる水^み緑^{りよ}花^かであり、人々の生活と関係しながら保全を図ります。</p> <p> 田園  里山</p>
みりよくか 水 ^み 緑 ^{りよ} 花 ^か のコア	<p>高良山を中心とした部分は、久留米の歴史や景観、生態系の原点（重要な拠点）であり、久留米市の水^み緑^{りよ}花^かの要となります。</p> <p>そのため、水^み緑^{りよ}花^かのコアと位置づけネットワークの要としていきます。</p> <p> 水^み緑^{りよ}花^かのコア</p>
みりよくか 水 ^み 緑 ^{りよ} 花 ^か の 主要軸	<p>水^み緑^{りよ}花^かの骨格（筑後川・耳納連山）に大きくいだかれた都市形態の中で、耳納連山から筑後川をつなげる、三つの大きな連なり（流れ）の主要軸があり、その主要軸をもとに、最適な水^み緑^{りよ}花^かネットワークの形成を図っていきます。</p> <p> 西部主要軸  中部主要軸  東部主要軸</p>
都市構造の 拠点となる みりよくか 水 ^み 緑 ^{りよ} 花 ^か	<p>久留米市都市計画マスタープランに位置づけのある「中心拠点」「地域生活拠点」「産業拠点」は、本市都市構造の拠点であり、公園整備や都市緑化の推進等により水^み緑^{りよ}花^かを図ります。</p> <p> 中心拠点  地域生活拠点  産業拠点</p>
みりよくか 水 ^み 緑 ^{りよ} 花 ^か の拠点	<p>水^み緑^{りよ}花^かネットワークを構成していくうえで重要な公園緑地や生態的な拠点であり、景観・環境・レクリエーション・防災の視点をもって保全、創出を図ります。</p> <p>  水^み緑^{りよ}花^かの拠点</p>
みりよくか 水 ^み 緑 ^{りよ} 花 ^か の回廊 (コリドー)	<p>河川（クリーク）・緑道・街路樹等により、水^み緑^{りよ}花^かの骨格をつなぐことを主とし、その中で、水^み緑^{りよ}花^かのコアや拠点をつなぎながらさらなるネットワーク機能を強化させる連続性を持った水^み緑^{りよ}花^かを創出及び保全・維持していきます。</p> <p>水^み緑^{りよ}花^かの回廊（コリドー）には、それぞれの要素はもちろんのこと、複数の要素を兼ね備える回廊（コリドー）を創出することにより、より複層的かつ重層的な空間を創出し、ネットワークの魅力化を図ります。</p> <p> 水の回廊（コリドー）  緑の回廊（コリドー）  花の回廊（コリドー）</p>

久留米水緑花構想図<久留米市全域>

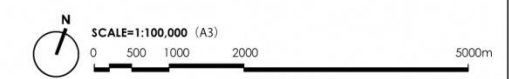
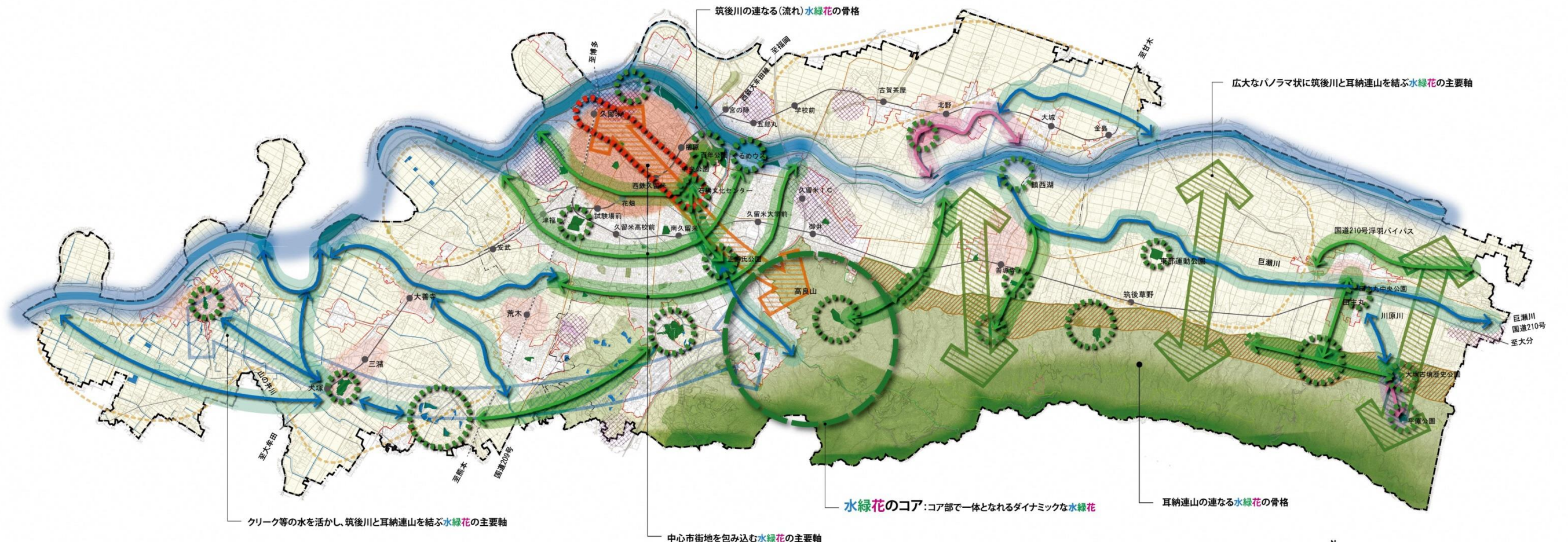
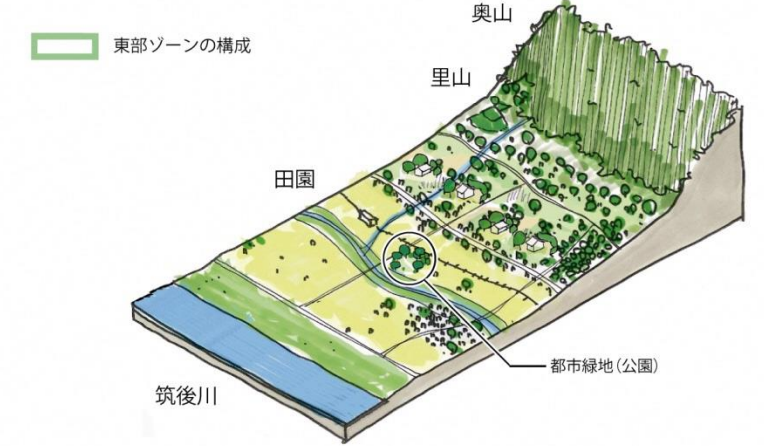
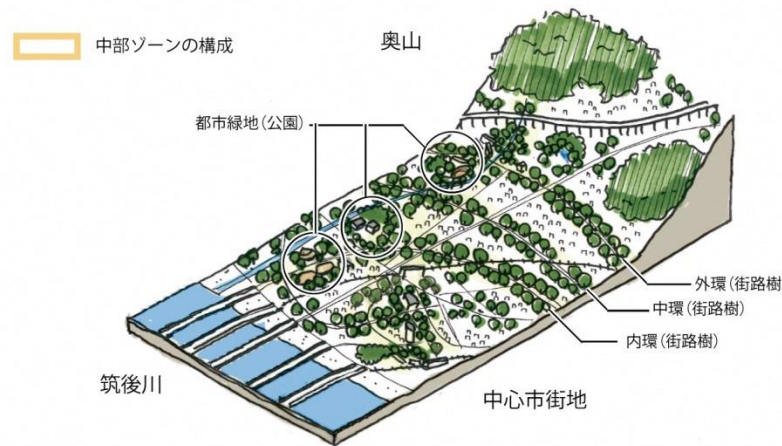
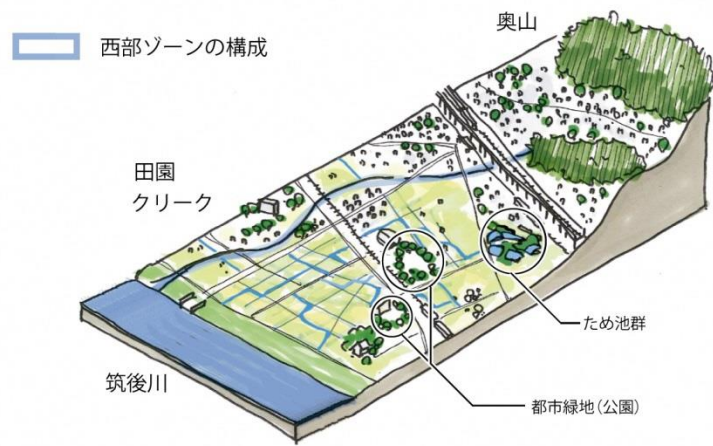
筑後川と耳納連山にいだかれた人が花笑む

久留米市の水緑花の将来像(水緑花ネットワーク)

~水(筑後川)が魅了し、緑(耳納連山)が力強さを感じさせる久留米を花笑むまちに進化する~



分類	凡例	緑の区分	内容	分類	凡例	緑の区分	内容
水緑花の骨格		筑後川	原風景の骨格である豊富な水や河川敷の緑	都市構造の拠点		中心拠点	都市のにぎわいと快適な暮らしを創出する水緑花(高次都市機能を集積し、県南の発展を牽引する本市の中心部)
		耳納連山	原風景の骨格である山並みや樹林の緑			地域生活拠点	快適な暮らしと生き物の移動空間となる水緑花(日常生活に必要な生活利便施設が集積し、日常生活圏の中心となる地域)
		田園	平野部の農地・農村集落等の緑			産業拠点	工場景観を引き立て生き物の移動空間となる水緑花(戦略的な産業機能の集積を図る地区)
背景となる水緑花		里山	山麓に広がる人々の生活と密接な関係を持つ緑	水緑花の拠点		中核都市の顔となる水緑花重点拠点・回廊エリア	中心市街地内(石橋文化センターと筑後川間)の水緑花ネットワーク重点拠点・回廊エリア
水緑花のコア		コア部で一体となるダイナミックな水緑花	久留米の歴史や景観、生態系の重要な拠点であり、水緑花ネットワークの要		水緑花ネットワークの拠点	水緑花ネットワークを形成する上で拠点となる都市公園や生産振興などの水緑花拠点	
水緑花の主要軸		クリーク等の水を活かし、筑後川と耳納連山を結ぶ水緑花の主要軸	筑後川⇄田園(クリーク)⇄耳納連山の連なり	水緑花の回廊(コリドー)		水の回廊(コリドー)	河川やクリークなどにより水緑花のコアや拠点をつなぐ回廊(コリドー)
		中心市街地を包み込む水緑花の主要軸	久留米城跡(筑後川)⇄高良山の連なり			緑の回廊(コリドー)	緑道・街路樹などにより水緑花のコアや拠点をつなぐ回廊(コリドー)
		広大なパノラマ状に筑後川と耳納連山を結ぶ水緑花の主要軸	筑後川⇄田園⇄耳納連山の連なり			花の回廊(コリドー)	道路花壇や鉢植えなどにより水緑花のコアや拠点をつなぐ回廊(コリドー)
		一連の田園風景	一連の田園により広大な平野を担保する緑				
		用途地域					

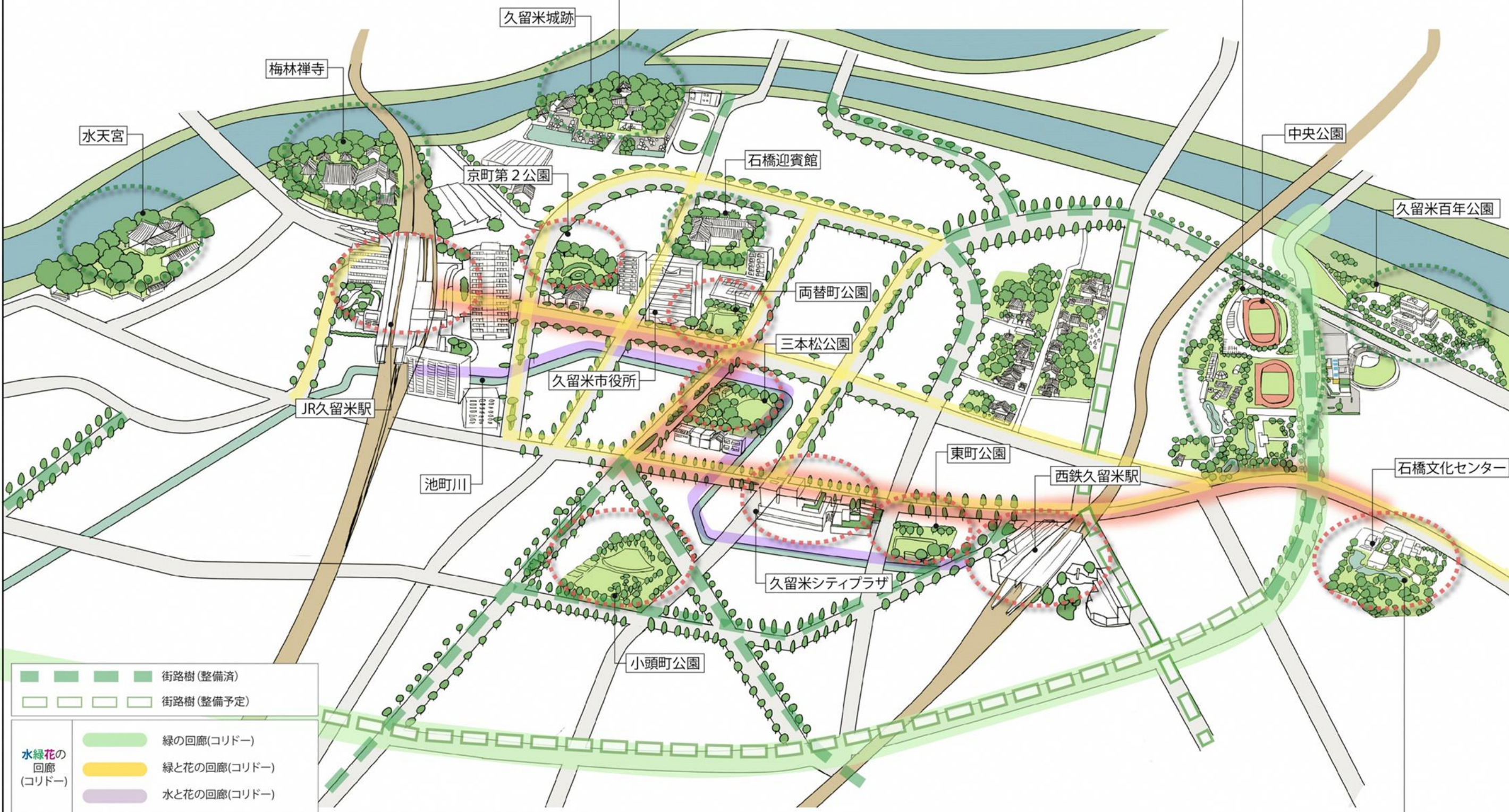




地域別水緑花構想図<中核都市の顔となる水緑花重点拠点・回廊エリア(中心市街地内)>

都市内の緑と筑後川が文化的に融合する水緑花拠点
<水・緑・文化の拠点>

筑後川沿いと公園の花の演出の水緑花拠点
<水・緑・花・スポーツの拠点>



	街路樹(整備済)	
	街路樹(整備予定)	
水緑花の回廊(コリドー)		緑の回廊(コリドー)
		緑と花の回廊(コリドー)
		水と花の回廊(コリドー)
	中核都市の顔となる水緑花重点拠点	
	水緑花ネットワークの拠点	
	水緑花ロード	

中心市街地内(石橋文化センターと筑後川間)の水緑花ネットワーク重点拠点

水緑花ネットワークを形成する上で拠点となる都市公園や生産振興などの水緑花拠点

中心市街地内の水緑花重点拠点を結びつなげるメインストリート

まちなかの水と緑と花の演出の水緑花拠点
<水・緑・花・生態系・文化の拠点>